ISSN 1347-5142

フェモラータオオモモブトハムシ

かわはく No.56

CONTENTS

平成28年度夏期企画展案内「あざやかないきものたち」構造色をもった生き物…2
スロープ展のご案内「空から見た荒川」……3
開催報告：平成28年度特別展「都幾川・槻川」……4
特別展関連 屋外イベント報告 ……5
「荒川大模型173」クリーンアップ大作戦！……6
ガリバーウォークのご案内～荒川大模型173を使用した展示解説～……6
特集コラム：シリーズ両生類の話　第１回「荒川の生きもの　カジカガエル」…7
リフレッシュオープンイベントを開催しました！……7

埼玉県立川の博物館
SAITAMA MUSEUM OF RIVERS

平成28年度夏期企画展案内

「あざやかないきものたち」
構造色をもった生き物

会期：平成28年７月16日（土）～９月４日（日）

あざやかないきものと聞いて、皆さんはどのような生きものを思い浮かべますか？

太陽の光を浴びて光るタマムシやチョウ、エサをとるために水に飛び込むカワセミの羽根など以外にもキラキラとしている生きものは多くいます。そのあざやかなキラキラは「構造色」と呼ばれる耀きでもあります。

展示では構造色をもつ生物やあざやかな生きものを紹介すると共に構造色についても解説します。また、人間が構造色をどのように利用しているかについても紹介します。

【展示構成】

○構造色を持つ生きものとカラフルな生きものの紹介

主に、昆虫類と鳥類の標本を展示します。構造色の代表格、モルフォチョウやトリバネアゲハ、プラチナコガネやヤマトタマムシなど構造色を持つ昆虫類を展示するとともにあざやかな色彩を持ったオサムシやカミキリムシなども展示します。

鳥類はカワセミやブッポウソウ、クジャクなどの剥製も展示します。

○利用される構造色

金属への着色として利用される構造色や、サツマイモに被害を与えるアリモドキゾウムシの防除に利用される構造色などを展示します。

○身近な構造色

CDや虹、シャボン玉など身近にある構造色とその構造について展示します。

（研究交流部　石井克彦）

イベント情報

○「顕微鏡で昆虫観察」

日にち：7月17日（日）
場　所：本館荒川情報局
定　員：随時５名程度

モルフォチョウ

埼玉県にゆかりのある構造色昆虫チチブコルリクワガタ

スロープ展のご案内

「空から見た荒川」

開催期間：2016年6月24日（金）～10月2日（日）

空から地上を眺める風景は、地面に立って見る風景と全く異なります。飛行機が飛ぶようになったこと、カメラで撮影することができるようになったことで、私たちは空から見た地上の風景を楽しむことができるようになりました。普段見ている建物や山も上から見ると、また新鮮な景色となります。

今回の展示では空から見た色々な荒川の表情をお伝えしたいと思います。

また、「空から見る」ためには飛行機の技術、カメラの技術が必要です。展示ではその歴史について簡単に解説しています。

そして空から見た写真の情報を得ることの利点についてもふれています。まず大切なのは地図が描けるようになったこと。空中写真を使った測量方法と地図化の方法について簡単に解説しています。また、正確な地図作製以外にも利点が挙げられます。

○写真そのものを見ると、色や形からその場所の様子がより視覚的にわかる（建物の屋根の色、林、畑、水田、工場など）

○角度を変えて斜めに撮影すると現地の状況、地形の様子がよりよくわかる。

○時間による変化（月、年単位）を見ることができる。

○災害（洪水・地震）時の様子を的確に把握できる。

などです。

最後には、空中写真の発展についても簡単に紹介します。

現在、空中写真は手に入れやすくなりましたが、「荒川」というテーマで空からの風景を眺めてみてください。

（研究交流部　森圭子）

かわはくとかわせみ河原（2007年）撮影：岩田省三氏

荒川大橋付近

かわはくとかわせみ河原（2016年）

彩湖上空　埼玉から東京へ

開催報告：平成28年度特別展

「都幾川・槻川」

荒川水系屈指の清流を誇る「都幾川・槻川」は、県内でも希少となった生物が多く生息し、多様な自然が特徴です。また流域には国宝を有する「慈光寺」、ユネスコ無形文化遺産「細川紙」などの優れた文化に加え、嵐山渓谷や三波渓谷などの景勝地やみどころも多数存在しています。

本展示では流域の自然史を中心に、代表的な文化などを紹介しました。また、当館では流域の学校との連携を推進していますが、その活動についても取り上げました。以下報告します。

●都幾川・槻川の自然史

はじめに流域の紹介として、地勢や植生の解説にはじまり、流域に懸る主な橋梁とその周辺の風景をパネルで紹介しました。

地質系の展示は、流域で産出された岩石の標本、東松山市など産出されたサメの歯化石を展示しました。また、ハンズオン展示として、都幾川、槻川、荒川それぞれの川原の石を触って、持って、その違いを比べられるコーナーを設けました。

カジカガエルの大型模型を導入に、流域に生息する動物を標本、レプリカによって展示しました。

流域に生息する動物として水生生物はウグイ、カジカ、アブラハヤなどの魚類、サワガニ、スジエビなどの甲殻類、トビケラ類やカワゲラ類などの昆虫を標本で展示しました。また、流域でみられるトンボやチョウを中心とした昆虫も標本で展示しました。

また、河川の周辺を棲み家としたり、餌場とする生きものであるイタチなどの哺乳類、アオサギなどの鳥類、ニホンマムシなどの爬虫類、そして豊かな自然を有していても侵入が止まらないコクチバスなどの外来生物を標本で紹介しました。

●リバーホール・スロープ展示

第二展示室に加え、リバーホールと第一展示室スロープでも展示をおこないました。リバーホールでは流域でみられる淡水魚のうち、希少なギバチをはじめとしてカマツカ、ヒガシシマドジョウ、そして婚姻色が魅力のオイカワを展示し、神出鬼没なアズマヒキガエルも展示しました。

スロープ展示では小川町・東秩父村のユネスコ無形文化遺産の「細川紙」や東松山市で出土された「三角縁陳氏作四神二獣鏡」（レプリカ）などを展示しました。

●特別展関連イベント

特別展関連イベントは、流域の魅力を体感する野外でのイベントを中心に開催し、館内イベントは講演会、DVD上映会を開催しました。

流域を歩くウォーキングイベントを２回開催し、１回目は都幾川と槻川が合流する地点をめざし、嵐山町を訪ね、２回目は槻川沿いの小川町を訪ねました。さわやかな新緑の季節と晴天に恵まれ、多くの参加者がありました。もうひとつの屋外イベントとして「川の生物観察と川の流れを学ぶ教室」を開催しました。（上記３イベントについては次頁参照）

講演会は地元出身の流域の自然史に詳しい新井浩二氏（嵐山町役場）を招いて開催しました。専門である甲虫類をはじめとする豊かな昆虫相や、流域のオオムラサキ保護活動などのお話しをいただき、多くの参加者が興味深く聴講されていました。

展示室内の様子

川原の石のハンズオン展示

特別展関連 屋外イベント報告

○都幾川と槻川の合流点を歩く
2016年4月3日（日）

生き物の種類の豊かさを誇る都幾川、きれいな水が和紙作りに利用されていた槻川、この２つの魅力的な川の合流点はどのようになっているのでしょう。ウォーキングでたどりました。

当日は天気にも恵まれ、延々と続く満開の桜並木の土手を歩きながら、15名の参加者の方たちと合流点を目指しました。2つの川の合流点は豊かな自然に囲まれて、大変気持ちの良い場所でした。その後、都幾川の水の流れによってつくられた様々な地形（河岸段丘や開析谷など）やその河岸段丘を利用した名所（大蔵館跡や行司免遺跡など）を訪ねました。木曽義仲の産湯のいわれがある鎌形八幡神社では、社殿の柱にアライグマの爪跡の発見もあり、数kmの範囲内に見どころがつまっている都幾川・槻川合流点付近は、とても興味深い場所でした。参加者のみなさんからも「川によってつくられた地形と歴史が密接に関わっていて、楽しめる場所だった」と御好評をいただきました。

また、都幾川・槻川の河川敷や遊歩道などは、埼玉県が展開している「川の丸ごと再生プロジェクト」によって整備され、歩きやすくなっていて安全にウォーキングをすることができます。一度歩いてみたい方は、川博までご連絡ください。何度歩いても楽しめる合流点、担当者も喜んで資料提供等を紹介いたします。

（自然の博物館　東宏昭、研究交流部　羽田武朗）

○川の生物観察と川の流れを学ぶ教室
2016年5月22日（日）

特別展示のイベントとして都幾川を体験し学べるイベントを実施いたしました。参加者の皆さんはときがわ町のせせらぎホール駐車場に集合し、徒歩で約10分本郷の河原へ。河原に到着し注意事項などを説明し、いざ川へ。午前中は川にすむ魚や魚たちのエサとなる水生昆虫などを観察しました。まずは自分の手で石を裏返して生き物を採集します。ヒラタドロムシやカワゲラ、ヘビトンボなど水質の良いところを好む生き物たちがたくさん見られました。その後、網を使って魚を採って楽しみました。オイカワやカジカなどが採れました。川岸に網を入れるとトウキョウダルマガエルやツチガエルと言ったカエルたちも観察することができました。お昼をとり、午後は川についての学習です。川の水が一体どのように流れているのか調べるために、河道の中を仕切り、カーブを作りました。作った笹舟を流してカーブの外側と内側では流れの様子が違うことを確認し、実際の流れを観察。体験的に生き物と川の流れについて学ぶことのできたイベントとなりました。

（研究交流部　石井克彦）

○小川町の槻川沿いを歩く
2016年5月29日（日）

小川町は現在人口が約3万人と大きくはない町ですが、町の中心部を槻川が流れ、かつては人の往来が頻繁で定期的な市がたっていました。今回のウォーキングでは、川があってこその小川町の産業を中心としたお話をしながら約10kmの道を歩きました。

東武東上線小川町駅で集合し、まずは町の中心の道を歩きます。小川町が「秩父往還」「鎌倉街道」「八王子道」の交差する立地にあることを確認しました。町の中心には江戸時代から続く割烹旅館があり、明治期の建物も残っています。

町の中心をぬけた後、1967年まで使われていた石灰岩を運ぶための東武根古屋線の跡を、大河駅（現存しませんが）を経由して根古屋駅まで歩きました。根古屋駅跡では当時運ばれた石灰岩のかけらも見つけることができました。かわはくウォーキングでは川と地形の話も欠かせません。八幡台の段丘や、川が氾濫してできる微地形、洪水についてもお話ししました。

小川町の中で水に関わる産業としてお酒造りは欠かせません。現在小川町に酒蔵が3軒もあるのは、良質の水が得られるためといいます。そのうちの一軒、松岡醸造を尋ねて蔵を見学しました。こちらでは以前は鍾乳洞の水を使い、今は地下深くから得られる水を利用しているとのことでした。

さて小川町と言えば和紙作りですね。川での作業が多かった和紙作りは小川の大切な産業で、今でも紙に関係する会社が多いのが特徴です。和紙づくりについては、和紙学習センターで説明していただきました。

他にも小川町で盛んだった素麺づくり、江戸時代からある堰や用水路、槻川の石の話などを交えて、無事に歩くことができました。

（研究交流部　森圭子）

「荒川大模型173」クリーンアップ大作戦！

平成27年12月から、施設改修工事のための、４カ月の長期休館期間を活用し、傷みの激しい「荒川大模型173」の手づくり再生計画がスタートしました。

12月の極寒の中、長年の風雨で吹き溜まった細かい等高線の汚れを、金ブラシと高圧洗浄機で洗い落とし、劣化で模型表面がボロボロとささくれ立った平野部をヤスリをかけての剥離研磨作業。北風の吹き抜ける中、午前中の暖かな陽射しのあるひとときが仕事の励みでした。

荒川の源流点（甲武信岳）から東京湾までの高圧洗浄を終え、剥離・研磨を終わらせた地区から順次下塗りをスタート。仕上・本塗りに入ったのは春の訪れを感じ始めた２月半ばでした。

扇状地の始まり寄居近郊から下流に、ホワイトグレーで塗っていきます。目に見えて綺麗になってゆく様に心弾む作業の始まりです。この日からは、日に日に見違えるほどに変貌する大模型に、作業の手もはかどります。川底の青、海の青を塗り終えた時には、荒川の本流・支流が鮮やかに蘇りました。

寄居から長瀞へ、武甲山から甲武信岳へと山間部の仕上げ作業は想像以上に手間のかかるものでしたし、道路と線路の修復作業は根気と手先の器用さを必要とする作業の連続でした。春の陽だまりの温かさが作業の手を早めました。

３ヶ月半のクリーンアップ大作戦！の模様を、ホームページ、フェイスブックに掲載、多くの方々から応援のメッセージも頂きました。綺麗になった「荒川大模型173」是非ご見学ください

（事業戦略室　萩原 幸仁）

美しく甦る大模型に仕上塗りの手も軽やか…

ガリバーウォークのご案内
～荒川大模型173を使用した展示解説～

リフレッシュオープンにあわせ、キレイに生まれ変わった日本一の屋外地形模型「荒川大模型173」。

当館には、この大模型を使用した、その名も「ガリバーウォーク」という展示解説があります。

ジョナサン・スウィフトの『ガリバー旅行記』から名前をお借りしているこの展示解説は、物語の主人公と同じように、実際の1,000分の１のスケールに再現された荒川流域の地形を俯瞰しながら、学芸員や当館ボランティアスタッフの解説を聞きながら散策するイベントです。

一級河川「荒川」の長さは173kmあります。なので、1,000分の１の大きさで再現してあるとすると、ただ大模型の周辺を歩くだけでも400m以上歩くことになります。「屋外を400mも歩く」と聞くと、それだけで尻込みする方もいらっしゃるかもしれませんが、大模型に再現された埼玉県の母なる川、「荒川」。模型とはいえ、その光景は、一見の価値があると自信をもって言えます（キレイになったばかりですし）。

ガリバーウォークでは、ただ見るだけではなく、更に解説がつきます。解説は、お客様の要望に沿って内容・時間を調整することが可能です。

「解説はハードルが高くて…」という方には、絶対に押さえておいて欲しい荒川の基本事項だけをお話して、あとは自由に見学するプランをご提案することもできます。

「荒川のことを全て知りたい」という方には、より詳しいお話を、お客様の時間が許す限り続けるというプランをご提案することもできます（昨年度は一番長い方で、３時間強お話いたしました）。

さすがに３時間は極端なお話で、通常は荒川の概要を30分程でお話しています。

当館に来館され、大模型をご覧になられる際には、ぜひ学芸員・ボランティアスタッフにお声掛けください。お待ちしております。

（研究交流部　羽田 武朗）

◆ 特集コラム ◆
シリーズ両生類の話

第1回 「荒川の生きもの　カジカガエル」

青葉の頃から初夏にかけて、ゴロゴロした石が多く、流れが比較的緩やかな清流で「フィフィフィ…」と軽やかな鳴き声が響いていることがあります。鳥や昆虫のようにも聞こえますが、鳴き声の主はカジカガエルです。繁殖期の夜は、オスが産卵に適した石の上に縄張りを張り、メスを誘うために盛んに鳴き交わす光景がみられます。

奈良時代の約千三百年前の歌集「万葉集」で詠まれている「かはづ」はカジカガエルといわれ、古くから親しまれています。江戸時代後期には鳴き声を楽しむ観賞用として飼育されていた記録もあります。

筆者は仕事帰りの夜、都幾川や槻川でカジカガエルの鳴き声を楽しみに行くことがありますが、「青葉・せせらぎ・カジカの声」を欲張って体感することができます。カジカガエルの繁殖期はゲンジボタルの発生期と重なるため、6月は贅沢に風流が楽しめる季節になります。

しかし、繁殖期は比較的容易に観察できますが、夏を過ぎるとぱたりと姿を消してしまいます。川からほど近い森の中で暮らしていると考えられますが、年中カエルを観察しに行っている筆者も秋には数回しか見たことはありません。以前かわはくの建物の隙間で越冬が確認され、川からそう遠くへは移動していないと考えられます。

そんなカジカガエルも河川改修などの環境の変化により、数を減らしている現状です。埼玉県内では、都幾川、槻川、高麗川、名栗川、秩父地方の荒川本流、赤平川などでは比較的容易にみられます。数は少ないものの、かわはくの敷地内でもみかけることもあります。

（研究交流部　藤田宏之）

鳴いているカジカガエルのオス（小川町）

リフレッシュオープンイベントを開催しました！

4/1～5/8の期間、リフレッシュオープンイベントを開催しました。初日には、コバトン、さいたまっちとカワシロウが来館者をお出迎えし、かわはくの再開をお祝いしました。

目玉イベントの“館長と行く「かわはくぐるっとツアー」”はGWにも開催し、多くの方に楽しんでもらえました。夏まつり（7/24開催）にも行う予定ですので、ぜひ参加してくださいね。

他にも、寄居チンドン一座の皆さんのパフォーマンス（4/3）や、“川と海はつながっている”「華やかな水の中の生きものたち」の展示、「君の描いた絵が動く！“かわはく水族園”」（4/1～4/3）なども好評でした。

これからもぞくぞくと楽しい催しを行いますので（裏表紙をご参照ください）、ぜひ遊びにいらしてください。

（広報担当　若目田葉子）

かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

8月

6/24/金～10/2/日
スロープ展「空から見た荒川」

7/16/土～9/4/日
企画展「あざやかないきものたち」
構造色をもった生き物

1/月
かわはくであそぼう・まなぼう　かわはく開館・水の日記念「利き水体験」
時間：①10：00～12：00　②13：00～15：00
内容：利き水などをしながら、水の性質や大切さを学びます。

6/土～7/日
企画展関連イベント　昆虫採集と標本づくりキャンプ
場所：名栗げんきプラザ
費用：大人4,500円　子供3,500円 ※県外の方は追加料金が発生します。
定員：30名
申込み：電話のみ（7/18日まで）　☎
対象：小学４年生以上（要保護者１名同伴）

18/木
かわはく体験教室「伝統漁法体験」
場所：かわせみ河原
時間：①10：30～12：00　②14：00～15：30
集合・解散：かわせみ河原
費用：500円（保険料等）　定員：各回20名　☎
内容：漁協の方を講師に招いて、荒川で行われていた昔ながらの漁法（投網など）を体験します。

21/日
かわはく研究室～川・自然・歴史～「荒川博士になろう!」
時間：①10：00　②11：00　③13：30　④14：30　⑤15：30（予定）
場所：荒川大模型173
定員：各回15名ほど
内容：荒川大模型173を使用して、荒川の自然・歴史についてお話します。

10月

10/4/火～2/5/日
スロープ展「荒川の堤防あれこれ」

9/日・16/日・23/日・30/日
スロープ展関連イベント
「ガリバーウォークで堤防探検」
時間：①11：30　②14：00　定員：各回15名程度
内容：荒川大模型173を使用して、荒川流域に整備された様々な堤防の解説をします。

15/土
企画展関連イベント兼かわはく体験教室
「親子で体験：ヒョウタンでマラカスづくり」
場所：講座室
時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）　定員：15組30名　☎
内容：予め準備したヒョウタンを用いて、親子でマラカスづくりに挑戦します。

16/日
かわはく研究室～川・自然・歴史～
「ミジンコを観察しよう」
場所：荒川情報局
時間：13：30～15：30
定員：随時10～15名ほど
内容：実体顕微鏡などを使ってミジンコを観察します。

22/土 23/日 29/土 30/日
かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」
時間：10：00～16：00　※材料がなくなり次第終了
内容：自然の素材も使用した仮装体験や、ハロウインにちなんだ様々なブースを用意します。仮装して来館した方にはステキなプレゼントがあります。
※仮装したカワシロウも登場予定です。

22/土～30/日
かわはくハロウィンウィーク
時間：終日
内容：ハロウィンのかざりつけをお楽しみください。

29/土
企画展関連イベント兼かわはく体験教室
「親子で体験：ヒョウタンに絵付けしよう」
場所：講座室　時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）　定員：15組30名　☎
内容：ヒョウタンに絵付けをして飾りをつくります。ハロウィンの絵付けもできます。

9月

10/1/土～11/27/日
企画展「ヒョウタン展（仮）」

3/土
かわはく体験教室「砂金採り教室」
時間：10：00～12：00
費用：100円（保険料）
定員：20名　☎
内容：かつては砂金が多く採れた荒川で、砂金の採集にチャレンジします。運がよければ砂金が採れるかもしれません。

11/日
かわはくであそぼう・まなぼう　「お月見体験・月よりダンゴ」
時間：13：30～15：30
内容：かわはく周辺に伝わる、お月見の風習を体験します。

18/日
かわはく研究室～川・自然・歴史～「土の手ざわりを感じてみよう」
場所：荒川情報局
時間：13：30～15：30
定員：随時5名ほど（時間についてはお問い合わせください。）
内容：いろいろな土の手触りをたしかめつつ、土のお話をします。

11月

3/木・祝
荒川ゼミナールⅠ　川を知るウォーキング
「荒川の堤防探検２～背割堤を歩く～」
時間：9：00～16：00（予定）
集合：JR上尾駅または川越駅、解散：JR南古谷駅
費用：100円（保険料）別途交通費が必要です。
定員：20名　☎
内容：荒川と入間川との合流点に築かれた背割堤の上を歩きながら、周辺の河川改修の歴史などを学びます。

9/水
荒川ゼミナールⅡ　いろんな荒川を見に行こう
「荒川河口をみる」
集合：JR赤羽駅　解散：中川船番所資料館前
時間：12：20～16：00
費用：100円（保険料）
定員：30名　☎
内容：荒川河口を巡視船に乗って見学します。
※中止・日程変更の可能性があります。お問い合わせください。

14/月
かわはくであそぼう・まなぼう　「木の実遊び」
時間：①10：00～12：00　②13：00～15：00
内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロベエつくりを体験します。

14/月
かわはく秋まつり
時間：10：00～16：00
内容：年に一度の埼玉県民の日！ 全施設無料になります。

19/土
かわはく体験教室「土の中の生きものを探そう」
場所：講座室ほか
時間：13：30～15：30
費用：100円（保険料）
定員：20名　☎
内容：野外で落ち葉や土を観察し、土の中の生き物を探して観察します。

20/日
かわはく研究室～川・自然・歴史～
「川のはたらきを知ろう！」
場所：砂の広場
時間：①10：00～12：00　②13：30～15：30
定員：随時10～15名ほど
内容：砂場に山を作って流水実験をしながら、川のしくみとはたらきについて学びます。

23/水・祝
荒川ゼミナールⅠ　川を知るウォーキング
「埼玉の川がつくった地形を見に行こう　湖畔砂丘パート2」
場所：久喜周辺
時間：10：00～16：00（予定）
費用：100円（保険料）
定員：20名　☎
内容：川がつくった地形である湖畔砂丘を見に行きます。

ホームページでも紹介しています！　http://www.river-museum.jp/

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行
埼玉県立川の博物館
〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL／048-581-8739（研究交流部）FAX／048-581-7332
Eメール／web-master@river-museum.jp/
PRINTED WITH SOYINK
彩の国 埼玉県
2016年７月22日発行